

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東栃井 66-1		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	平成27年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2171200278-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家で過ごしているような安心感とともに外出や買い物などにいつでもでかけられるよう職員が常に対応をしています。大勢で賑やかに楽しく過ごす時間もあれば一人で静かにご自分の時間を楽しまれています。趣味の延長や毎日日課としての活動などを継続出来る様個々に支援もしています。同一敷地内に法人の施設があり大掛かりな行事も行うことが可能です。夏祭りや流しそうめんなど幅広く楽しんでいただいています。まわりは田んぼや畑が多く、利用者の方が過ごしてきた暮らし方がまだ残っており、散歩に出れば季節の作り物や馴染みの景色があり、落ち着いて過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の朝は、ラジオ体操で始まり、朝食の後に掃除や洗濯を済ませて、近くの観音様まで散歩をしている。職員は、利用者が外気を浴び、足腰を鍛え、残存能力を発揮できるように、一人ひとりに適した自立支援に取り組んでいる。利用者の急変や事故発生に備え、全職員が救急救命講習、感染症の吐しゃ物処理・発生時の対応等の研修を受けている。職員間で常にコミュニケーションを取ることで 信頼関係が出来、働きやすい職場になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念をもとにグループホーム独自の理念をかかげ、職員全員が同じ思いを共有し、ケアにあたっている。	理念は「利用者地域にとって安心できる事業所」とし、実践に繋げる為に、朝のミーティングで唱和し、確認している。個人の尊厳を尊重し、全職員が、一人ひとりの利用者に適した自立支援を目指す指針として共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会から行事やレクリエーションにお誘いを頂き、その都度出掛けている。散歩等に出た際は積極的に声をかけ、会話を楽しみ野菜や花をいただく等、顔なじみの関係が出来ている。	職員は、利用者と共に、地域のクリーン事業やリサイクル活動に参加し交流している。また、事業所の夏祭りには、地域住民が多数訪れるなど、常に、事業所と利用者が、地域と繋がりがながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	美濃加茂市のネットワーク会議を通して、地域の認知症に関する活動(行方不明の高齢者対策)や介護者の集いへの参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の活動を報告し、協力や助言を得、地域からみた施設のありかたなどを参考にしながらサービスの質の向上を目指している。	会議では、利用者の様子やサービスの実施状況を詳しく報告した後、参加者と意見を交換している。会議で出された意見を家族にも知らせたいとの要望を組み入れ、通信で知らせる等、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用者状況報告書を提出し、利用者の入所状況や待機者状況を報告するとともに運営推進会議や月に一度のネットワーク会議を通し事業所の状態は常に理解をもらっている。	行政主催のネットワーク会議に参加している。困難事例を出し合い、検討会を行う中で、事業所の実情を伝えている。行政の担当者が運営推進会議に参加し、感染症予防への提言をする等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束についての理解をし、施錠に関する事をはじめ、身体拘束はもちろんすべての拘束は行わないこととしている。	職員は、拘束をしてはいけないことを理解しており、学習会で確認、共有しながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員については法人内で虐待についての研修を義務づけている。非常勤職員に対しても常日頃虐待はしないケアを行うよう指導をし、全職員が虐待は行わないことを徹底している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修のカリキュラムにも取り入れられており、全職員が理解をしている。また、その必要に応じて相談や援助を行う用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は利用者、家族に納得のいくまで説明を行い、しっかりと理解をいただいた上で締結をしている。法改正の都度、改正された内容を説明、理解していただいた上で契約書他の取直しを実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のグループホーム全事業所で毎年同時に満足度アンケートを実施。そこからの要望や意見は事業所で共有し、改善策に基づいて、運営に反映させるよう努めている。	家族からの意見や要望を知るために、年1回、満足度アンケートを実施し、その結果を運営に活かしている。毎月家族向けに発送する通信に、家族の意見欄を設けたり、面会時に意見を聞いている。「天窓からの光が眩しい」との利用者からの声があり、遮光フィルムを貼って対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議は施設長にも参加をしてもらい職員からの意見や提案、要望などを反映させている。	職員会議では、意見が活発に出され、運営に反映されていて、職員が働きやすい、職場の礎になっている。施設長が会議に参加していることで、職員からの意見や要望を、速やかに対応できる事が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当、資格取得手当なども適切に支給されている。研修への出席や資格取得がしやすいよう環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修、リーダー研修と段階的に法人研修のプログラムがあり受講が義務付けられている。非常勤職員に対しても受講希望があればいつでも受講できるよう案内を掲示し参加への促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一度のネットワーク会議で交流の機会がある。会議後不定期で事例検討会や勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを通し、適切にサービスが受けられるよう要望や不安などをしっかりと理解するように努めている。また、なかなか表に出せない思いにも注意をしながら話をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際に家族が持っている思いや不安を聞き、その思いに沿うようサービスを提供している。その後も定期的に状態を報告することで信頼関係を構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを通して、適切にサービスが提供出来る様努めている。必要なことと要望をお聞きし、サービス提供に関してしっかりと説明をし納得をいただいた上で実施をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を提供するうえで利用者の立場から世話になっているとの思いを持つ事に無いよう自然に声掛けをしながら手早く行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所した時点で家族との関係が切れる事の無いよう家族が参加する場面やどのように支援をするか常に相談をしながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時も行っていた喫茶店、美容院など継続して通うことが出来る様家族とも話し合いをしながらおすすをめている。友人の訪問や近所の方が繰り返し来所していただけるよう来やすい雰囲気作りにも努めている。	友人や、近隣者等の訪問時には、お茶を出し、気楽に来てもらえる雰囲気づくりに心がけ、再来につながる声かけをしている。墓参り、法事への外出は家族の協力を得ている。年賀状、手紙、電話等のやりとりで、家族や知人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行う時等は常に利用者全員に声掛けをし、一緒に参加出来る様配慮をしている。共通の話題を提供したり、職員が会話にはいり、話が広がり盛り上がる様支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所となってもその後の経過を見守り必要に応じて相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外食、外出の行き先やその日に着る洋服など自分で選択が出来る様支援をしている。自分の思いが伝えられない利用者に関しても家族から様子を聞きながら以前に好きだった服や好みの食べ方を出来る限り考慮して提供している。	認知症ケアのセンター方式を一部取り入れ、日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握している。意思表示の困難な利用者は、家族からの情報と、日々の様子を丁寧に観察し、把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の面接や入所後の会話の中、家族の面会の際などから出来る限り話を聞くよう努め、職員でその情報を共有しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子の観察を行い、行ったこと出来た事、話したことなどを記録しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適切にカンファレンスを開催し、ご家族の同席や可能であれば利用者に同席をしていただき満足 of 行く計画の作成に努めている。	介護計画作成時には家族が参加して、職員と意見を交換し、モニタリングしている。主治医や理学療法士等からの情報を盛り込み、カンファレンスを行い、利用者の立場に立った計画を作成している。	事業所は、利用者がより良く暮らす為には、家族も大切な社会資源としてとらえ、家族の理解と協力が重要と考えている。家族に担ってもらえる部分を具体化した計画作成の実現に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を気づきとして記録をし、ケアに活かすよう努めている。またその情報を共有できるよう記録を行い実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の様子から何を希望されているかを把握するよう努め、難しいと思われる事でも皆で考え方法を見つける様に意見を出している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所するまでディサービスに通っていた利用者の場合はディサービスの協力を得、引き続き遊びにでかけるなど環境が変わる事による不安を取り除き、積極性や自己決定などを意思表示出来る様支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医は変更することなく継続して受診をしていただいている。その場合はホームでの様子を情報提供書を作成しお渡しをしている。予防接種等は全員が一斉に受けられるよう支援をしているが希望の医院で接種も可能であることを説明して納得したうえでやっている。	利用者は、往診がある、これまでのかかりつけ医を継続している。定期受診は家族が同行し、緊急時は職員が支援している。受診時には、事業所で作成した情報提供書により、適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細なことでも変化に気づいた場合は記録を行い、情報の共有とその後の様子観察に活かしている。必要に応じご家族に受診をしていただくよう報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携室をとoshi、入院中の様子や退院の見込みなどを常に把握するよう努めている。ご家族には居室を開けておく期間や退所となる状態についてご理解いただきその後の受け入れ先についても安心して頂けるよう相談にのっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際にはご説明をしているが利用者様の状態がホームでの生活に限界が生じた場合、その後の支援も含めご家族に説明をし、納得を頂いた上で法人内の施設連会会議を通し適切に対応をしている。	重度化した場合や他施設への移行支援については、契約時に、事業所の方針を家族に説明している。利用者の状態の変化時には、速やかに対応できるよう、併設事業所との連携会議で情報交換しており、本人と家族が不安にならないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修には全職員が参加している。その他応急処置等の勉強会にも積極的に参加をし、万が一に備えている。特に今季は感染症にそなえ常勤職員の他、夜勤専門職員など全職員が吐しゃ物の処理や発生時の対応の研修を受講済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練と夜間召集の訓練を実施している。避難訓練の際は自治会と近隣の協力提携を結んでいる会社と合同で訓練を実施している。	防災訓練は消防署、自治会、地元企業の参加がある。緊急連絡網を整え、一斉メールで職員に連絡、召集する訓練も行い、地域との協力体制も結んでいる。事業所の備蓄を確保し、担当者が在庫の確認、入れ替えを適切に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けは耳元で、職員同士での話し声が聞かれないように、居室に入る時は許可を得てから等のことに気を付けている。	職員は、一人ひとりの利用者の尊厳を尊重し、自分が恥ずかしいと思うような言葉は使わない、居室に入る時は許可を得るなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の着替えやおやつを決める時等、出来る限り本人に選択をしていただくよう努めている。また外出や行事なども参加の決定権は利用者様に委ねており、希望や要望には極力沿うよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出掛ける際や行事に参加する時、余暇の過ごし方等は希望に沿うように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使用する方については切れる事の無いよう注意をし、一緒に買い物に出掛けたり家族に依頼をしている。欲しい物や必要な物はご家族につたえ、希望に沿うように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様各々の好きな物、嫌いな物を把握し、食事が楽しくなるよう努め、食事にかかる時間や食べ方などそれぞれに合わせて提供をし、下準備や配膳、後片付けなどを一緒にやっている。	食材の買い物、下準備、片付け等は、出来る人が職員と共に日常の仕事として行っている。専任の調理員が利用者の嗜好を把握し、食べることが楽しみになる食事を提供している。食卓を円形に並べ、全員が顔を合わせて 楽しく食べられる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量に変化がある時は記録をし状態の把握に努めている。また、食事の摂取量は各々に合わせ適量を提供している。健康状態や摂取能力に応じ刻み食やお粥などに変更する対応を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアを実施している。協力歯科医の助言を得ながら状態の把握に努め、必要が生じれば診察を受けられるよう手配をする。			

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や状態を観察し声掛けや誘導、促しを行う事によって排泄の自立を目指している。尿取りパッドが必要になっても極力その使用を抑え、トイレでの排泄が出来る様努めている。	排泄の失敗を少なくする為に、職員は一人ひとりの利用者の排泄リズムを把握し、トイレに誘導している。トイレでの排泄が増え、パッドの使用量削減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂ったり運動をするなど予防に努め、やむを得ないばあいは主治医と相談し薬をつかながら無理のない排泄を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置の関係から夜間の入浴ができる対応は行っていないが出来る限り希望に沿うようにつとめている。	入浴は、利用者の状態に合わせて、順番、時間等、臨機応変に対応し、ゆったりとした気分で入浴出来るよう支援している。菖蒲、柚子等を利用して、季節の湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床は利用者の好きな時間で行っている。寒がりの方や暑がりの方に応じて寝具の調整や室温、暗さなどを把握し個々に適した対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員のお薬手帳を保管。お薬情報書を個人のケースにファイルし効能や副作用、容量、用法を何時でも見られるようにしている。薬の変更時はその都度記録し、様子を観察し次回の受診の際に情報を提供するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所の際やご家族からの聞き取りと日頃の様子から好きなことややりたいことを提供できるように環境を整えている。また以前からの趣味が継続できるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの要望があればご家族に伝え叶うよう支援をし、散歩や買い物、お茶などの希望には出来る限り対応をしている。気軽にいつでも買い物が出来る様、近くのショッピングセンターで掛売りの取引を結んでもらった。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、事業所周辺の散歩や買い物に出かけている。利用者は、戸外に出て外気を浴び、出会う人と挨拶を交わし、摘んできた花を食卓に飾っている。花見や紅葉狩り等、行楽にも出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物をしたり必要品を購入する機会を作り、社会との関わりの継続を支援している。現金が管理出来ない利用者については1000円～3000円を目安にホームで預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればいつでも応じるとともに手紙が来た場合は返事をお出しするようにすすめている。その為にいつでも使える様切手や葉書は何時でも使える様用意をしている。毎年利用者から知り合いやご家族に年賀状をお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう掲示物に配慮をしている。その小物作りも利用者と共にやっている。季節により天窓からの光がまぶしく利用者から苦情がでていたため遮光フィルムを貼り居住環境を整えた。	共有空間は広く、ソファのコーナーでは、職員と利用者でトランプ遊びが出来るなど、ゆったりとくつろげる場になっている。季節感あふれる共同作品が壁面を飾り、大小のクリスマスツリーが設置されている。皆の顔が見られるよう食卓の並べ方を円形にする等、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者と過ごすことが出来る居間があり、自分一人ですごしたいときは居室を使ってもらうなどその時の気分ですごしていただいている。ときには利用者同士で居室を歩き来る姿もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を希望される方には畳で対応をしている。居室に持って来ていただくものは特に制限はしていない為好きなように居室を使って頂いている。今まで居室でテレビを観る事が出来なかったが要望に応じて工事を行い、順次対応をしていく。	居室には、使い慣れた椅子や衣類掛け等を持ち込み、使いやすく配置している。家族と一緒に写真、手作りの作品等を飾り、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。居室入口には、毎月、季節を表す折り紙を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動や靴の履きかえなど生活を通して自分にできることは維持して行けるよう支援を行っている。居室の場所や一日の流れなど掲示をすることにより理解をうながすよう環境を整えている。		